

2019年09月10日(火)【外為Lab】松田哲
タイトル:【今週の9月12日(木)のECB理事会】

今週の9月12日(木)のECB理事会に注目しています。

+++++

ECBの金融政策を振り返ると、3月7日のECB理事会で、ECB(欧州中央銀行)の金融政策の変更が発表されました。

この時点(3月の時点)で、当面の間(少なくとも2019年内、あるいはそれ以上の期間)、ユーロの金利引き上げが、実施されないことが明らかになりました。

+++++

米国も、3月20日のFOMCで、年内(2019年内)のドル金利引き上げは無い、と断言しました。

しかし、この時点(3月の時点)では、当面の市場(マーケット)が、ユーロの金利引き上げが無いこと(つまり、ECBの金融政策)に着目して、それを「ユーロ売り」の材料にするのだろう、と考えました。

つまり、当面の市場(マーケット)は、「ユーロ売りドル買い」に動くのだろう、と考えました。

欧州経済の低迷の方が、米国の経済状況よりも、注目度が高い、と考えるからです。

言い換えれば、この時点(3月の時点)で、欧州経済は、既に低迷している、と言えます。

しかし、米国経済は、この時点(3月の時点)では、これから悪化する可能性があるものの、比較的に良い状況を保っている、ということです。

+++++

+++++

その後、時間が経過して、7月下旬(7月25日)のECB理事会を迎えます。

7月のECB理事会では、事前予想通りに、政策金利の据え置きが発表されました。

しかし、この時の理事会後の会見で、ドラギ総裁は、利下げと資産買い入れ策を再開する可能性を示唆しました。

先月（8月）は、ECB理事会が開催されないので、今月（9月）のECB理事会（9月12日）で、ユーロの政策金利が引き下げられる可能性があり得る、と考えます。

ただし、マーケットのコンセンサスは、「ユーロの政策金利据え置き」の様子です。

+++++

それで、今週の9月12日（木）のECB理事会に注目しています。

あくまでも、今の時点で、マーケットの事前予想は、
「今回（9月）のECB理事会で、ユーロの政策金利は据え置きとなる」
が多数派です。

しかし、7月のECB理事会の際に、ドラギ総裁が、利下げと資産買い入れ策を再開する可能性に言及したことを踏まえると、何かしらの金融緩和策（利下げの可能性もあり）を発表することもあり得る、と考えています。

+++++

（2019年09月10日東京時間14:10記述）